

事業報告書

1 支援団体名	本明川を語る会
2 事業名称	第13回「諫早大水害を語り継ぐ」～7月25日を忘れない～
3 実施日時	令和4年7月16日（土）
4 実施場所	諫早市中央公民館 講堂（諫早市東小路町8番5号）
5 事業目的、内容及びその効果	<p>（事業実施状況・内容）</p> <p>本年は昭和32年7月25日の「諫早大水害」から65年の節目の年です。近年地球温暖化に伴い全国各地で豪雨災害が頻発しています。このような時期、忘れ去られようとしている「諫早大水害」を語り継ぎ、災害から命を守る「避難行動」の重要性を痛感している昨今です。</p> <p>今年もコロナ禍で感染対策に配慮し、手指消毒及び検温また、会場内の空調は30分毎に実施しました。</p> <p>実施内容は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水害犠牲者を悼む合唱 ② 漫画「ランドセル」上映 ③ 体験者手記朗読 水害当時の小学生の作文を鎮西学院大学学生が朗読 ④ 体験者談 中学3年で被災された西島重利さんの体験談 ⑤ 災害への備え 諫早市総務部危機管理課 川路理事が行政の取組み等について、市民に話しかけてもらいました。
	<p>（事業実施効果）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今年もコロナ禍で、感染対策に配慮して、定員150人を設定及び開催時間も短縮しましたが、来場者（100名）からは、例年以上に多くの方々から、内容が良かったとの高評価を得ました。 ② 65年の経過とともに体験者談を聞く機会が少なくなるなか、西島さんの体験談は体験した人でなければ語れない話でした。また、当時の良き日本の「家族・隣近所の絆の強さ」を実感しました。「自助・共助」の重要性をいまさらながら再認識しました。 ③ 諫早市が今年4月組織改革で誕生した「危機管理課」の川路理事から市民へ減災に向けた取り組みは、今後市民の防災意識の向上につながるものと確信しました。
6 参加内訳	総人数 100名
	（1）主催者参加 20名
	（2）日本人参加（（1）を除く） 80名
	（3）外国人参加（（1）を除く） 0名
7 今後の方針	<p>この事業を通じ市民の防災意識の改革、行政依存体質から自分たちの住む地域はお互いが助け合いながら、「共助の意識構築」に繋がっていきたいと思います。併せて自主防災組織の活性化に発展への取り組みも行っていききたいです。</p> <p>この会の実行委員の年代構成も幅広く、様々な意見が反映した運営ができるようになった反面、メンバーの増加は今後の大きな課題です。</p>

主催者開会挨拶



合唱



体験者手記朗読



体験者談 西島重徳さん



災害への備え 諫早市川路理事



閉会挨拶

